

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O177600319		
法人名	メディカル・ケア・サービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム石狩花川 1階いちご		
所在地	石狩市花川404-12		
自己評価作成日	令和1年12月30日	評価結果市町村受理日	令和2年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0177600319-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0177600319-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアに力を入れており、入居者様一人一人がご本人らしく楽しみを持って過ごせるよう、どんな事がしたいか、どこへ行きたいのか等を伺い実現できるようにしています。答えるのが難しい方については、ご家族様に以前どのような事をするのがお好きだったのかを伺うようにして実現するようにしています。  
その人らしい暮らしができるように楽しく生活ができるようにスタッフ一同その方の最期まで一人一人の意思を尊重し、ご家族様と一緒に考え考え日々ケアに取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「愛の家グループホーム石狩花川」は、バス停から徒歩で数分の自然豊かな住宅地に立地している。近隣には紅南公園やホームセンター、コンビニエンスストアなどもあり、利用者は散歩や買い物で出かけたり、町内の敬老会や夏祭りに参加して地域交流を深めている。認知症サポーター養成講座をきっかけとして、小学生が事業所を訪れて手品を披露したりクイズで利用者と交流する機会も初めて設けられている。ふまねつやフラダンス、そば打ちのボランティアや市内の学生が来訪して歌や寸劇を披露するなど外部の方が訪れる機会が多い事業所である。市町村との関係では、管理者が市のグループホーム連絡会の運営に携わったり認知症サポーター養成講座の講師を務めるなど、行政と連携しながら協力関係を築いている。個別支援で本人の好きな場所へ外出するほか、おやつ作りでケーキや芋餅を作ったり、季節に応じて年賀状作成や入浴剤作りなど利用者と一緒に楽しむ行事を積極的に開催している。家族へのサービス面では、担当職員による手書きの個別便りや血圧や体温、入浴状況などを記録した温度版用紙を毎月送付して利用者の状況を伝えている。介護計画の評価を各職員の視点で個別に行いながら利用者一人ひとりの状況を詳細に把握し、その人らしい生活が送れるように家庭的で温かなケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階いちご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼で理念の唱和を行い、ホームの目標を確認しあう事で気を引き締めて対応に努めるようにしている	法人の共通理念の一つに、地域の人々との触れ合いを大切にしますという地域密着型サービスを意識した文言が含まれている。採用時に法人研修で周知するとともに、事業所内の要所に掲示して日々の業務の中で確認できるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議での意見交換や近隣のグループホームとの交流や石狩市のグループホームとの勉強会に参加している	地域の小学生が事業所を訪問して手品を披露したり、フラダンスやそば打ちなどのボランティアの方が訪れている。近隣のスーパーマーケットに買い物に出かけて会話を交わす利用者もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事への参加やボランティアの方々との交流、近隣グループホームとの合同行事を行い交流を図っている。またキャラバンメイトの活動を通して認知症の理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、ホームの取り組みをつ伝えながら色々な意見交換や情報共有が出来ている。	地域役員や民生委員、行政関係の他、今年度は1～2名の家族が参加した会議もある。看取りや地震災害など事業所からの報告を中心に開催しているが、今後は普段得られた家族の意見なども会議に活かしていくことも検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中で行政の方との意見交換やキャラバンメイトの活動を通して意見交換をしている。	管理者は、市のグループホーム連絡会の運営に携わって研修を開催したり、行政の依頼を受けて認知症サポーター養成講座の講師を務めることもある。市役所からの依頼で、困難事例の利用者受け入れなども行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的なホーム内研修とチェック表用い理解を深めていると共に、日中は玄関を常に開錠し、身体拘束防止に努めている	禁止の対象となる具体的な行為を記載した「身体拘束に関する指針」を整備し、身体拘束や不適切ケアについて勉強会を実施している。3か月ごとに不適切ケアチェックシートを作成し、身体拘束適正化委員会でも話し合っている。転倒の危険に配慮してベッドから布団に変更した方もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、定期的なホーム内研修とチェック表を用い日々職員同士の確認、理解に努めている。		

愛の家グループホーム石狩花川

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階いちご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修により理解を深めていき、活用できる状態に今後していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学して頂き、疑問点等質問をする機会を設け、納得の上での入居を心掛けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回ご家族様アンケートを実施しご要望が聞ける体制と面会時には近況を伝え、情報共有が出来る様心掛けている	家族の来訪時に様子を伝えながら、意見や要望を聞き取っている。家族の要望などは職員間で口頭で伝えることが多い。今後は継続して情報を共有できるように、家族の些細な思いや職員の気づきなどを記録に残すことも検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回の職員アンケート、ユニット会議や個人面談の場を通し意見や提案を聞く場を設けています。	リーダー会議のほか、毎月ユニット会議を開催している。参加できない職員の意見も事前に聞き取り、会議に活かしている。管理者は業務の中で職員の意見や提案を聞き取ったり、3か月ごとに個別面談を実施してケアや運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇や休み希望を使いやすいよう環境が整えられています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修やエリア内研修、外部研修を通して人材育成をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はGH連絡会の幹事的なポジションにおいて、連絡会を開催やキャラバンメイトの活動や「いしまち」という地域のネットワークにも所属しており、研修等の情報が入りやすくなる様取り組んでいる。また、職員は同じ地域のGHとの行事により交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階いちご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前どこにいたとしても、ご本人とお会いし現在の状況をお聞きします。また関係者からも同様にアセスメントする事により関係作りに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時は積極的にご家族様にご様子を伝えたり過去の生活を伺うように心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様やご家族様と相談の上歯科や、訪問マッサージ等の利用をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来る事を考え、困難な際はどうしたらご自分で出来るか考えながら関わる様心掛けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度ご家族様へお便りを発送し、その中で様子を伝えたり、状況変化の際はお電話にて相談するなど関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と連携を取りながら実際にお会いする機会を設けたり、その方の行きたい場所へ行ける様支援している。	仕事関係の知人や昔からの友人などが訪ねて来る方もいる。電話が来たり年賀状が届く利用者もいる。誕生日に職員の送迎で自宅に帰って食事をしたり、市内の飲食店に出かけることもある。家族と外食に出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの名前を意識してもらえよう声掛けの際には名前を呼ぶようにし、入居者様同士の相性をみながら席を考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階いちご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、運営推進会議に参加されたり等、施設の関係は続いている方がいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや意向の把握に努めており、言葉を発するのが難しい方は、ご家族様へ聞き把握に努めている。	職員は会話や発語、表情や目の動きなどから思いや意向を把握している。「課題整理総括表」を3か月ごとに更新しているが、趣味や嗜好などの情報が充実しているとはいえない。	「課題整理総括表」の個人因子欄を活用し、趣味や嗜好など本人の現状が分かる情報も記録に残すよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式からICFへ移行し、ご本人の生活環境等を把握する様務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン更新時に再アセスメントの他月に1回のユニット会議にて現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の言葉を聞きケアプラン更新時に思いを反映させるようにしています。また、担当スタッフ中心にスタッフ全員でモニタリングを実施し、カンファレンスで意見を聞けるようにしています。	本人や家族の意向を反映させ、達成可能な目標1項目を介護計画に掲げている。全職員が個別に評価を行い、利用者担当職員を中心に3か月ごとに介護計画を作成している。今後は意向が少ない家族の思いも具体的に聞き取り、介護計画1表に記載したいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やスタッフの連絡ノートを活用し日々の気づきや意見を共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出時はスタッフ同伴だが、ホームのペランダでは自由に外での作業が出来る様取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを活用した行事を行い、施設以外の方々との交流が出来ている。また、ふまねっとを月に2回地域の方が入居者様向けに行って下さっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本にやご家族様の要望に応じ、受診、往診を実施し往診以外の他科受診もスタッフが対応している	全員が協力医療機関の往診を受けている。専門医を受診する時は、健康状態に応じて職員も同行し、主治医と情報交換しながら適切な医療支援につなげている。受診記録は個別に記入している。	

愛の家グループホーム石狩花川

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階いちご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回往診先のクリニックの看護師が訪問し、相談や助言・指導をして下さり、クリニックは24時間の電話連絡体制でその都度指示を仰いだり、状況によっては訪問対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が発生した場合は1~2週間に1回は入院先へ出向き状態のアセスメントをしている。早期にソーシャルワーカーと連携をとり、早期退院に向け対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については早い段階からご本人、ご家族様と話し合い、医師との連携を密にし、施設が出来る事十分に説明しチームで支援している。	「重度化した場合の対応にかかる指針」と「看取り介護にかかる指針」を整備し、利用開始時に事業所として可能な対応について説明している。毎年看取りの勉強会を実施し、今年度も数名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルに沿った対応が出来る様全職員が定期的にホーム内研修をうけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同町内のGHと合同で運営推進会議を開催し、火災や災害時の町内との連携について話し合う機会を作っている。	消防署の協力の下、昼夜の火災を想定した避難訓練を実施しているが、近年は地域住民の参加は得られていない。今後は地震時のケア別対応について話し合い、マニュアルなどに綴り定期的に確認したいと考えている。	地域住民の参加を得た、避難訓練の実施を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室内の排泄介助や入浴介助等様々な場面でプライバシー保護を徹底している。	継続的にプライバシーや不適切ケアの研修を行っている。申し送りはイニシャルで行い、排泄や入浴などの場面でもプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に寄り添い、思いや希望を訴えやすい声掛けや関わりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせた対応を柔軟にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の衛生管理とともに、定期的にスタッフがマニキュアを塗ったりもしている。		

愛の家グループホーム石狩花川

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階いちご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に合った食事形態を提供している。入居者様によっては茶碗拭きなどをその方の能力に応じて手伝って頂いている	おやつにぜんざいやケーキを作ったり、個別支援で外食に出かけている。クリスマスにはバイキング形式の食事を楽しんでいる。日々の食事の下膳もできる方は進んで行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士により立てられ、バランスよく作られている。水分が進まない方にはゼリーを手作りし提供し不足分を補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員口腔ケアを実施し、歯科や歯科衛生士とも連携をとれている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力に応じ、対応しトイレ誘導やパットの使用しながら自立に向けた支援をしている。	水分・排泄チェック表に記入し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。バイタルチェック表に排泄状況を転記して、日々の体調管理としてお便りと一緒に毎月家族に送付している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や看護師と連携し個々に合わせ水分補給や腹部マッサージを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望のある方には極力叶うよう調整している。拒否のある方は無理にはお誘いせず、清拭やドライシャンプーも活用しながら清潔の保持に心掛けている。	基本的には週2～3回の入浴を支援している。回数は、本人の意向に沿って対応している。利用者ごとに浴槽のお湯を交換し、入浴剤を使用して入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の明るさ等個々に合わせている。日中の活動量を増やし安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人札を作り、容量と日付は間違わないよう徹底しているが、内容や副作用はまでは全員完璧とは言い難い。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人レクにてご本人の希望を叶える事や気分転換を図る支援を行っている。		

愛の家グループホーム石狩花川

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階いちご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人事前に希望を伺い計画の元外出している。また、花見といった季節の外出行事も行っている。	普段は、車椅子の方も一緒に本人の希望に応じて近隣の散歩や散策を楽しんでいる。冬季も個別外出を支援している。年1回、全員で居酒屋で宴会を行ったり、四季に合わせて花見や雪まつりの車窓見学、外食、カラオケなどに出かけている。地域の行事にも参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理できる方は少ない金額で所持して頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があった時には出来る様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全員が安心できるよう、一人一人の反応を見ながら飾りつけする様心掛けている。	居室に面した廊下の突き当たりにあるアーチ型の窓にそってベンチが設置してある。階段の壁には、個別外出の写真が掲示されている。居室だけではなく居間のソファで過ごしている利用者も多い。職員は、各利用者がゆっくり、それぞれの時間を過ごせるように支援を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりと過ごして頂けるようソファを置き、テレビを見る時などは声掛けし誘導している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のなじみの物を持って来て頂き使用して頂いています。	居室にはクローゼットが備え付けられている。各利用者の意向に沿って、本人の使いやすい物や好みの物が置かれている。ベッドではなく、布団を利用するなど本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の出来る事を活かせるように情報収集し、その能力を活かせる場面を増やしていける様支援している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O177600319		
法人名	メディカル・ケア・サービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム石狩花川		
所在地	石狩市花川404-12		
自己評価作成日	令和1年12月30日	評価結果市町村受理日	令和2年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアに力を入れており、入居者様一人一人がご本人らしく楽しみを持って過ごせるよう、どんな事がしたいか、どこへ行きたいのか等を伺い実現できるようにしています。答えるのが難しい方については、ご家族様に以前どのような事をするのがお好きだったのかを伺うようにして実現するようにしています。  
その人らしい暮らしができるように楽しく生活ができるようにスタッフ一同その方の最期まで一人一人の意思を尊重し、ご家族様と一緒に考え考え日々ケアに取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0177600319-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0177600319-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年2月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階とまと)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼で理念の唱和を行い、ホームの目標を確認しあう事で気を引き締めて対応に努めるようにしている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議での意見交換や近隣のグループホームとの交流や石狩市のグループホームとの勉強会に参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事への参加やボランティアの方々との交流、近隣グループホームとの合同行事を行い交流を図っている。またキャラバンメイトの活動を通して認知症の理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、ホームの取り組みをつ伝えながら色々な意見交換や情報共有が出来ている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中で行政の方との意見交換やキャラバンメイトの活動通して意見交換をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的なホーム内研修とチェック表用い理解を深めていると共に、日中は玄関を常に開錠し、身体拘束防止に努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、定期的なホーム内研修とチェック表を用い日々職員同士の確認、理解に努めている。		

愛の家グループホーム石狩花川

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階とまと)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修により理解を深めていき、活用できる状態に今後していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学して頂き、疑問点等質問をする機会を設け、納得の上での入居を心掛けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回ご家族様アンケートを実施しご要望が聞ける体制と面会時には近況を伝え、情報共有が出来る様心掛けている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ間のアイデアや情報を管理者と共有出来ており、入居者様のケアに活かされている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回のスタッフアンケートと年に数回管理者と面談を通して各自の意見がくみ取れるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修や外部研修に参加し、人材育成にあたっております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はGH連絡会の幹事的なポジションにあり、連絡会を開催やキャラバンメイトの活動や「いしまち」という地域のネットワークにも所属しており、研修等の情報が入りやすくなる様取り組んでいる。また、職員は同じ地域のGHとの行事により交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階とまと)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前どこにいたとしても、ご本人とお会いし現在の状況をお聞きます。また関係者からも同様にアセスメントする事により関係づくりに努めております。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前ホームを見学して頂き、ご家族様の困っている事や不安に感じている事をしっかりと聞き、関係づくりに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員同士やご家族様とコミュニケーションを密にしその時に必要なサービスを提供している。その他のサービスの必要性や希望があった場合は柔軟に対応している			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いを言って頂ける関係性を気付けるよう努めている。思いを言えない方には、その方の出来る事や昔の情報からその方の思いを感じれる関係づくりに努めております。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回ご家族様へお便りで近況報告し、お変わりのあった場合はその都度報告相談し、共に本人を支えていく関係を築いている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室になじみの物を置いたり、なじみの場所に出かけたり時には自宅に帰宅したりと関係継続に努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様と個別に向き合う時間を大切にし、役割活動やレクリエーションを通して円滑な関係を築いていける様努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階とまと)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、運営推進会議に参加されたり等、施設の関係は続いている方がいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のニーズやご家族様の意向を把握し、それに沿えるよう日々心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様の過去の情報をアセスメントし生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の記入はもちろん月に一回のスタッフ会議やサービス担当者会議で話し合う事で現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様のニーズや意向を反映した介護計画の作成徹底している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートを活用し情報共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的には受診はご家族様対応としているが、状況に応じて職員で対応する等柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを活用した行事を行い、施設以外の方々との交流が出来ている。また、ふまねっとを月に2回地域の方が入居者様向けに行って下さっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様が希望した病院受診や主治医と相談し適時適切な医療は提供できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階とまと)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回往診先のクリニックの看護師が訪問し、相談や助言・指導を下さし、クリニックは24時間の電話連絡体制でその都度指示を仰いだり、状況によっては訪問対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が発生した場合は1~2週間に1回は入院先へ出向き状態のアセスメントをしている。早期にソーシャルワーカーと連携をとり、早期退院に向け対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については早い段階からご本人、ご家族様と話し合い、医師との連携を密にし、施設が出来る事十分に説明しチームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルに沿った対応が出来る様全職員が定期的にホーム内研修をうけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同町内のGHと合同で運営推進会議を開催し、火災や災害時の町内との連携について話合う機会を作っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助や入浴介助等、プライバシーの確保をし、一人一人の人格に尊重した言葉かけや対応を全職員が行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人の思いや希望を出せるような働きかけを常に行い自己決定が出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や一人一人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応できるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装をアドバイスしたり月1回の訪問理美容を利用して頂いている		

愛の家グループホーム石狩花川

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階とまと)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に合った食事形態を提供している。入居者様によっては茶碗拭きなどをその方の能力に応じて手伝って頂いている			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量を1000cc以上を目標に摂取して頂いている。水分が進まない方にはゼリーを手作りし提供する事で水分を摂取できるよう工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には入居者様全員で口の体操を行っており、必要な方には歯科衛生士の口腔ケアを入っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自身で排泄可能であるがトイレの訴えがない入居者様は適度な間隔で声掛けし、トイレ誘導をおこなっている。やむを得ない場合はパットやリハビリパンツを使用して頂き、適度に交換する事で快適に過ごせるよう支援している			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し薬の調整を行っている。排便が困難な方には腹部マッサージなどで排便が出来るよう支援している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の希望に合わせ、回数や時間帯を合わせ入浴して頂いている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様に合った入床を支援しています。入居者様個人のペースで声掛けや介助をしています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人札を作り、容量と日付は間違わないよう徹底しているが、内容や副作用はまでは全員完璧とは言い難い。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の能力に応じて洗濯物たたみや掃除等行えるものを提供しています。			

愛の家グループホーム石狩花川

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階とまと)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に数回全員で出かける事はあるが、現状一人一人の希望に沿っての外出は出来ておらず、今後の課題かと思えます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理できる方は少ない金額で所持して頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があった時は話が出来の様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全員が安心できるよう、一人一人の反応を見ながら飾りつけする様心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の性格や相性とその時の認知症の症状によってテーブルや席の配置を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人一人が安心出来る様な環境作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の出来る事や出来ない事を把握し、居室、共用スペースの環境作りに努めている。		



目標達成計画

事業所名 愛の家グループホーム石狩花川

作成日：令和 2年 2月 28日

市町村受理日：令和 2年 2月 28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域住民の参加を得た、避難訓練の実施を期待したい	地域住民の方が避難訓練に参加できる	運営推進会議と避難訓練を合同で行う	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。